

# 大学での体育科長期研修における 現職教員の成長

京都ノートルダム女子大学  
住本 純

- **学び続ける教員** (中央教育審議会,2012)
- **Continuing professional development の重要性** (Armour,2006)  
(生涯を通じた継続的な専門職としての職能発達)
- **大学での学び直しの必要性** (中央教育審議会,2012;2015)
- **中堅教員をどう育てていくかが重要** (森脇,2012;中央教育審議会,2015)



**長期派遣研修** (以下:長期研修)



**教員の授業力量向上、成長や変容の機会や経験**  
(當山,2009;国立教育政策研究所,2011;朝倉ら,2012;朝倉,2016)



**しかし、成長プロセスは、ほとんど検証されていない**

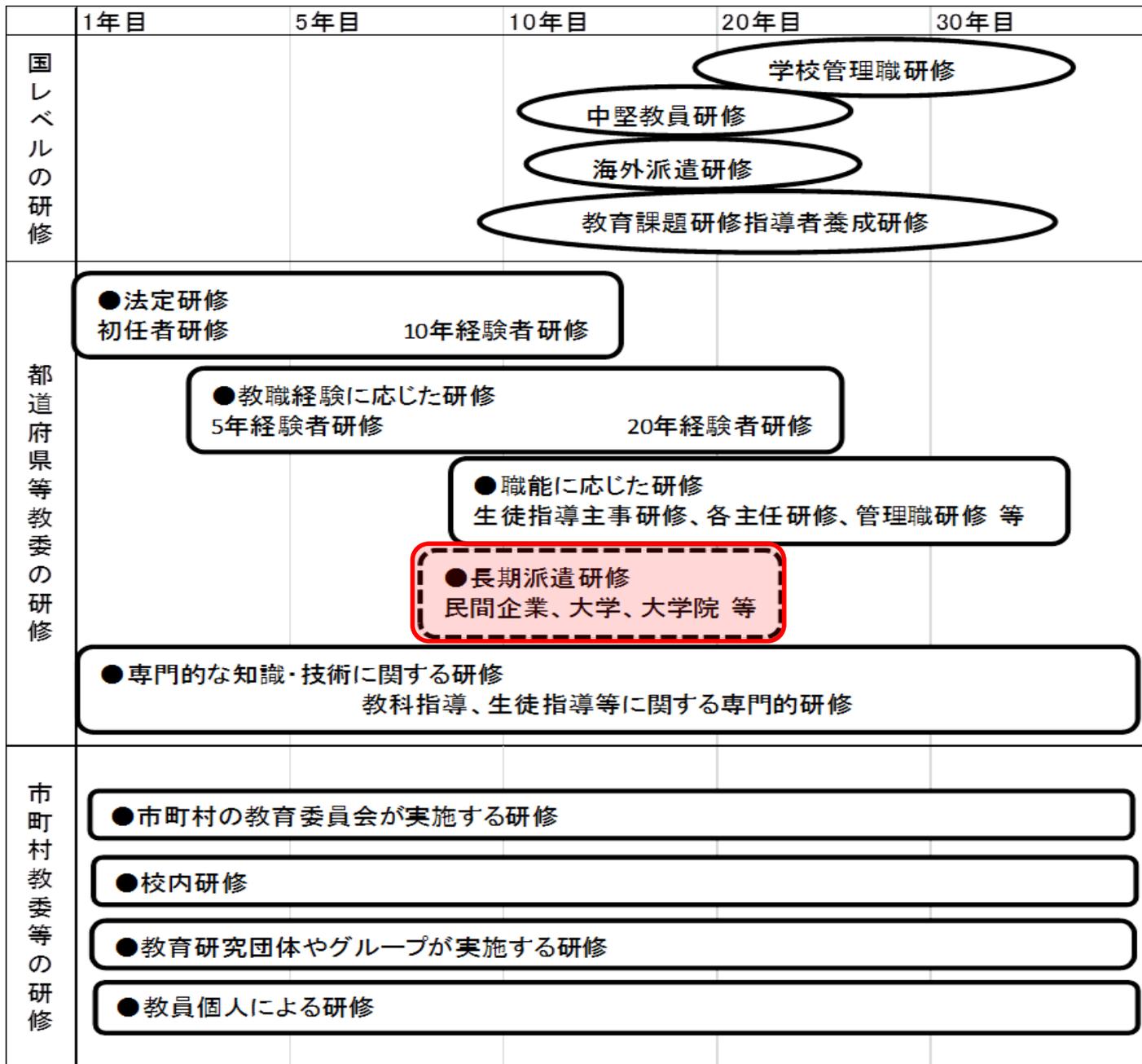


図1 教員研修の実施体系(文部科学省資料を基に作成)

2000年以降、教員の成長過程を教員の学習過程として捉える視点が教師教育の基本的な認識となった(秋田,2009;朝倉,2016)。



長期研修の成長プロセスを明らかにするために、  
長期研修での経験からの学びとその過程に着目する。

授業力量を規定する要因は

信念、知識、授業技術の3つの側面から捉えられる(木原,2004;吉崎,1997)。



本研究では、研修期間中における成長を知識の獲得や信念の変容とする。

成長の定義に関する先行研究

「教育実践を基軸とした変容過程」(今津,1996)

「職能, 力量, 資質能力といった量的な概念の向上や形成」(朝倉,2016)

「獲得や増大だけは捉えきれない教師の変容過程」(朝倉,2016)

「過去や現在の営みの分析を出発点として新しい教育実践を切り拓くこと」(木原,1998)

表1.対象教員の概要

対象者	性別	年齢	教職歴	出身学部	校種	他校種経験	保健体育免許	都道府県	
T1	男	42	17年	体育学	小学校(3年)	中学校(16年)	あり	茨城県	
T2	男	39	11年	教育学	小学校(8年)	教育委員会(3年)	あり	富山県	
T3	男	39	13年	教育学	小学校(16年)	なし	なし	千葉県	
T4	男	44	21年	体育学	中学校(17年)	小学校(4年)	あり	茨城県	
T5	男	38	12年	経営学	小学校(12年)	なし	なし	千葉県	調査済み
T6	男	35	12年	教育学	小学校(12年)	なし	なし	埼玉県	
T7	男	35	11年	経済学	小学校(11年)	なし	なし	千葉県	
T8	男	34	7年	体育学	小学校(7年)	高校(2年)	あり	富山県	
T9	男	36	12年	教育学(修士)	小学校(12年)	なし	あり	千葉県	
T10	男	33	11年	教育学	小学校(11年)	なし	あり	埼玉県	調査中
T11	男	34	11年	教育学	小学校(11年)	なし	あり	埼玉県	

対象：課題1で対象となった長期研修生T2～T11の10名

収集方法：半構造化インタビュー（T2～T8はデータ収集済み）

（予備調査として、研修開始時に体育授業に関する信念や知識に関するインタビューを行った）

表2.課題3に関するインタビュー時間

インタビュー時期	T1(予備)	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	平均時間(分)
中間時		38分43秒	37分05秒	42分23秒	31分13秒	32分34秒	26分55秒	36分25秒	35分
終了時	56分43秒	39分33秒	40分19秒	35分53秒	29分58秒	33分15秒	34分53秒	36分28秒	36分
平均時間(分)	56分	39分	38分	38分	30分	32分	30分	36分	36分

表2. 長期研修プログラム

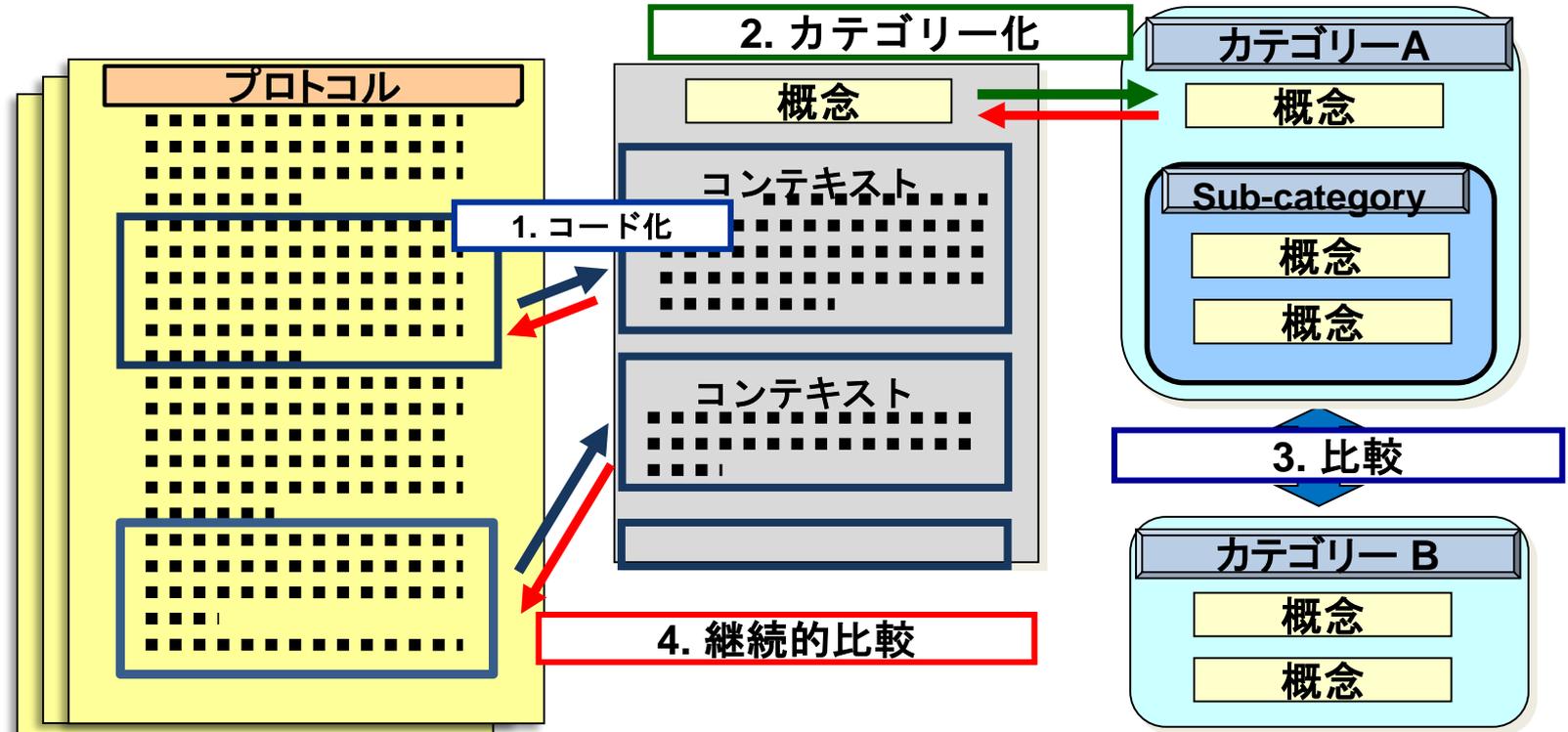
期間	初期	中期	後期		年度末
研修内容	計画・立案 自治体への計画書の作成	検証授業 授業観察	分析作業	報告書作成	発表会
	大学教員と大学院生との 週1回の打ち合わせ	毎授業毎に、 大学院生や大学教員と 次時の授業に向けての 話し合い	大学教員と大学院生との 週1回の打ち合わせ		
	(指導方法の知識) (教科内容の知識) について文献から情報収集		文献からの情報収集		
	他者の授業観察		他者の授業観察		
	大学授業		大学授業		
省察		行為の中の省察	行為の中の省察 (行為についての省察) (行為後の省察)		
関わり	大学院生				
	大学教員				
	長期研修生				
		在籍校			在籍校

インタビュー準備

インタビュー

インタビュー

修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (木下、2003、2007)



(図1.M-GTA手順 四方田ら、2010、AIESEPポスター資料)

時間軸に即した分類

<信頼性及び妥当性の確保>

ピア・イグザミネーション、トライアングレーション、メンバーチェック (メリアム、2004)

- 各研修生の長期研修における成長は、  
多様で複雑なプロセスである。

**必要不可欠な経験や学び**

- 迷いやジレンマによる研修内容の設定
- [授業を追究できるコミュニティ]の存在
- <客観的データを用いた授業分析における省察経験>から<学習者の実態や変化>や<指導方法や教材内容に関する学び>を得ること
- 時間的余裕といった[環境的条件]

## 迷いやジレンマによる研修内容の設定

ジレンマを契機とした教員の成長や変容が指摘

(高井良, 1994; 都丸・庄司, 2006)

信念への疑いや葛藤があれば, それらが変化する可能性があると指摘 (Nesper, 1987)



では設定すれば、自動的に成長するのか・・・



条件を整備していかなければならない

## [授業を追究できるコミュニティ]の存在

他者からの関わりの中で自身の信念を問い直すことが信念変容の契機として働くとの指摘 (Bechtel and O'Sullivan, 2007)

授業研究をするコミュニティの中での葛藤の経験が省察を深め、信念に影響を与えるといった主張 (木原, 2004)



大学という新たな環境で学校現場とは違うメンバーと授業作りに向けたコミュニティを形成していくメリット



**大学教員がメンターとしての役割**

＜客観的データを用いた授業分析における省察経験＞

＜学習者の実態や変化＞

＜指導方法や教材内容に関する学び＞



データに根ざし、一定の観点に即して実践を省察すること

(Tsangaridou and O' Sullivan, 1994)

体育教師の成長には、成功的な体験を保証していく必要性

(Tsangaridou & O' Sullivan, 1994)



自身の経験に距離を取ることができるように、映像や記録を元に、一定の手続きと視点を設定して自身の経験を振り返り、そこから学びを得ていく必要性

大学という新たな環境で学校現場とは違うメンバーと授業作りに向けたコミュニティを形成すること

自身の経験に距離を取ること一定の手続きと視点を設定して自身の経験を振り返り、そこから学ぶこと

## 時間的余裕といった[環境的条件]

### まとめ

体育授業観の問い直しや変容といった体育科長期研修での成長を明らかにすることができた。

その【成長プロセスの基礎的条件】として、[授業を追究できるコミュニティ]や[環境的条件]が示唆された。

同時に長期研修での様々な経験や学びを得た結果、研修生は体育授業に関する【コミットメント】が高まることが示唆された。

## 主要参考文献

- 秋田喜代美（2009）「教師教育から教師の学習過程研究への転回：ミクロ教育実践研究への変貌」矢野智司・秋田喜代美・佐藤学・今井康雄・広田照幸編『変貌する教育学』世織書房，pp.45-75.
- Armour,K.（2006）Physical education teachers as career-long learners：a compelling research agenda. Physical Education and Sport Pedagogy Vol.11,No.3,November 2006,pp.203-207.
- 朝倉雅史（2016）『体育教師の学びと成長－信念と経験の相互影響関係に関する実証研究－』学文社.
- 今津孝次朗（1996）『変動社会の教師教育』名古屋大学出版会.
- 木原俊行（1998）「自分の授業を伝える」浅田匡・生田孝至・藤岡完治編『成長する教師』金子書房，pp.185-196.
- 木原俊行（2004）『授業研究と教師の成長』日本文教出版.
- 木下康仁（2003）『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い』弘文社:東京.
- 国立教育政策研究所（2011）教員の質の向上に関する調査研究報告.  
[http://www.nier.go.jp/kenkyukikaku/pdf/kyouin-003\\_report.pdf#searchB8](http://www.nier.go.jp/kenkyukikaku/pdf/kyouin-003_report.pdf#searchB8)（参照日: 2012年12月4日）
- Nesper. J.（1987）The role of beliefs in the practice of teaching. Journal of Curriculum Studies, 4, pp.317-328.
- 森脇健夫（2012）「中堅期からの飛躍－「協同的な学び」との出会い」グループディダクティカ編，『教師になること、教師であり続けること』勁草書房，pp.137-156.
- メリアム:堀薫夫訳（2004）『質的調査法入門:教育における調査法とケース・スタディー』ミネルヴァ書房:京都.
- 當山清実（2009）「「優秀教員」の職能開発における現職研修の効果に関する調査研究：校外研修を中心として」『日本教育行政学会年報』35:182-198.
- Tsangaridou, N. and O'Sullivan, M.（1994）Using Pedagogical Reflective Strategies to Enhance Reflections Among Preservice Physical Education Teachers. Journal of Teaching in Physical Education, 14（1），pp.13-33.
- 吉崎静夫（1997）『デザイナーとしての教師・アクターとしての教師』金子書房.